

教育等に関するアンケート（教育長・公立学校長）分析報告

（平成 27 年度アンケート実施・平成 28 年度分析）

1. アンケートの概要	1
(1) 目的		
(2) 対象者		
(3) 実施時期		
(4) アンケート内容		
(5) 分析機関		
2. アンケートの結果と考察	2
(1) 鳴門教育大学の学部を卒業した教員の全体的な印象		
(2) 鳴門教育大学の大学院を修了した教員の全体的な印象		
(3) 今後の教員の在り方を見据え、鳴門教育大学で伸ばして欲しい能力		
(4) 鳴門教育大学・大学院の教育内容について、良いと思われること、改善すべき点又は要望		

1. アンケートの概要

(1) 目的

本学の教育の状況について、デマンド・サイドの意見を把握することにより、教育の質の維持・向上及び教育研究体制の一層の充実を図ることを目的とする。

特に、本アンケート結果は、在学生にとって、卒業・修了後に教職に就く（現職教員である大学院生にとっては、復職する）際に、学校現場からどのようなことを求められているかを知ることができ、修学への強い動機付けとなることを期待する。

(2) 対象者

徳島県内の教育委員会教育長，徳島県内公立幼・小・中・高・特別支援学校長：対象者456人，回答者347人（回収率76.0%）

(3) 実施時期

平成27年10月に、各教育長・学校長あてにアンケートを郵送した。

(4) アンケート内容

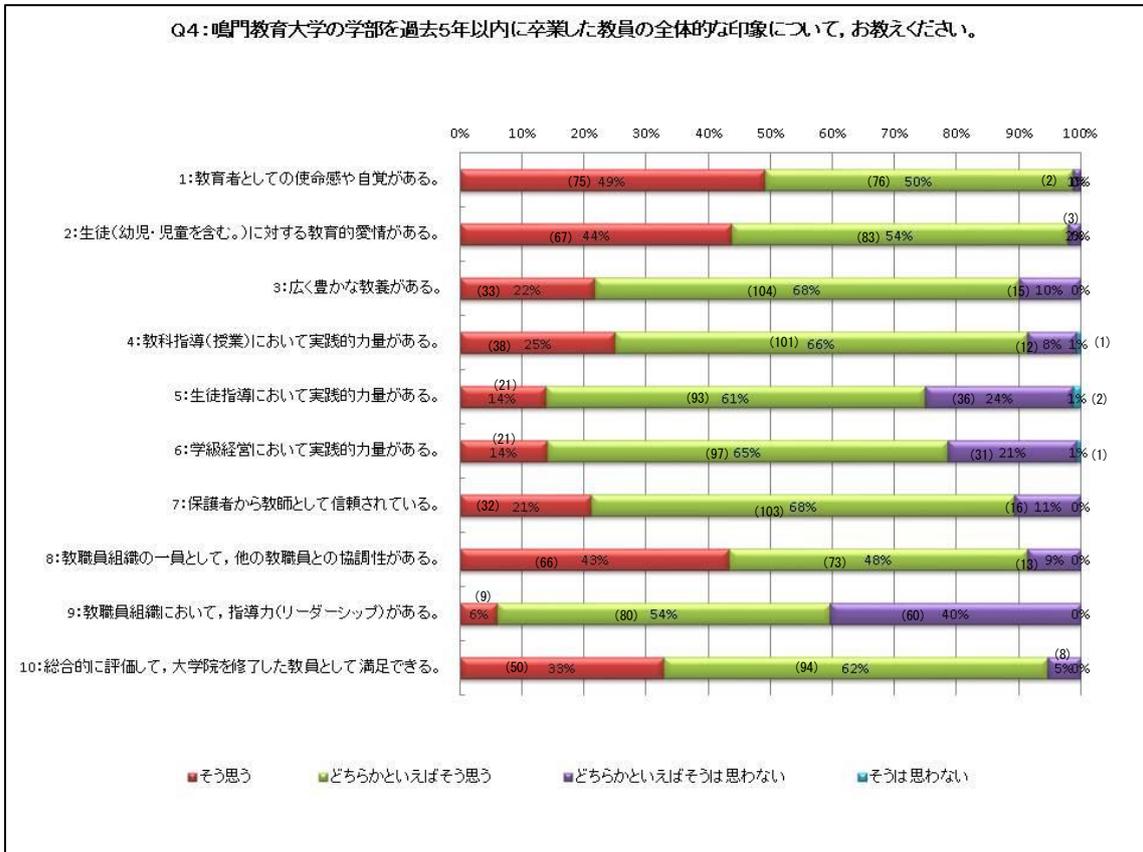
- ①本学の学部を卒業した教員の全体的な印象について、4件法で回答を求めた。
- ②本学の大学院を修了した教員の全体的な印象について、4件法で回答を求めた。
- ③本学で伸ばして欲しい能力について、責任感、コミュニケーション能力、専門領域における知識など15項目を設定し、3件法で回答を求めた。
- ④本学の教育について、自由記述で回答を求めた。

(5) 分析機関

学部・大学院FD委員会

2. アンケートの結果と考察

(1) 鳴門教育大学の学部を卒業した教員の全体的な印象



まず本アンケートは、本学学部を「過去5年以内に卒業した教員」を対象としたものである。全ての項目について肯定的な評価が6割以上となっていることは昨年度と同様である。

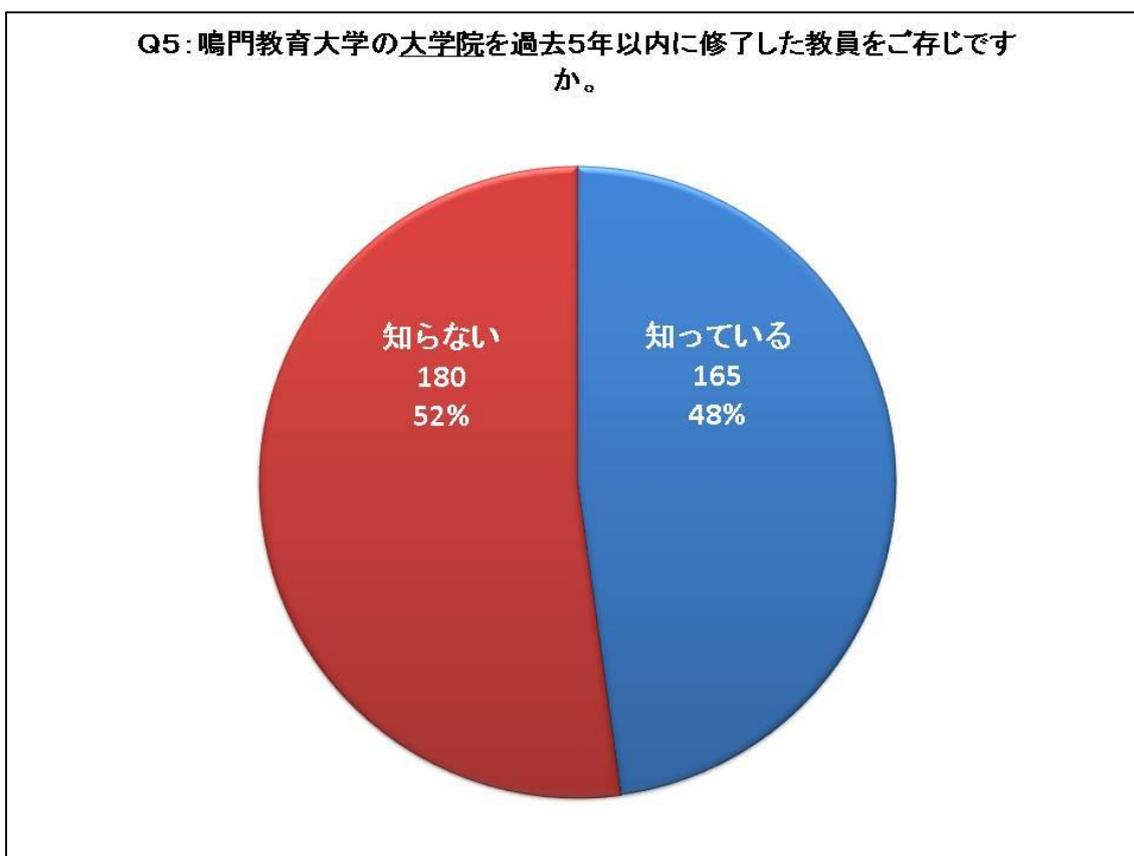
とりわけ、「教育者としての使命感や自覚がある」、「生徒(幼児・児童を含む)に対する教育的愛情がある」、「広く豊かな教養がある」、「教科指導(授業)において実践的の力量がある」、「教職員組織の一員として、他の教職員との協調性がある」、「総合的に評価して、大学(学部)を卒業した教員として満足できる」の諸項目について肯定的な評価が9割以上という数値を示す点も昨年度と同じ結果となった。また、「保護者から教師として信頼されている」について、肯定的な評価が昨年度88%、今年度89%と9割に近い数値となっていることも付言しておきたい。以上の結果から、本学学部卒業生が教育現場において基本的に高い評価を受けていることがわかる。

しかし、本学学部生による「具体的な成果」の自覚をめぐるアンケート結果では、「リーダーシップ・実行力」は肯定的な回答が73%であるにもかかわらず、「教職員組織において、指導力(リーダーシップがある)」の項目について、教育長等の肯定的な評価が6割丁度となっており、他項目と比べて否定的な評価の割合が最も高い点も昨年度と同じ結果であった。上述のとおり卒業後5年以内ということもあり、教職員組織で主導的立

場に立たないことが要因として推測されるが、それを承知の上で本項目があえて設置されていることから、教員としてのキャリアをスタートして 5 年以内に顕著な主導的役割を果たすことが期待されているということにもなろう。しかし、文科省の概要説明において、教職大学院が、「学部段階での資質能力を修得した者の中から、さらにより実践的な指導力・展開力を備え、新しい学校づくりの有力な一員となり得る新人教員」としてのスーパールーキー、そして現職教員教育を前提としたミドルリーダーの養成を使命とすることを踏まえるならば、本項目の妥当性も問われるべきかもしれない。

「生徒指導において実践的力量がある」、「学級経営において実践的力量がある」の項目は、昨年度と同様に全体の中では否定的な評価の割合が高い部類に入る。この 2 項目について、学部卒業生による「具体的な成果」アンケート結果では、肯定的な回答が 64%, 57%にとどまり、「どちらかといえば身に付かなかった」が 30%, 37%ときわめて多いことから、昨年度同様に本学教育課程の課題と考えられる。しかし、両項目ともに昨年度よりも肯定的な評価がそれぞれ 3.9%, 6.5%と微増していることも付言しておく。昨年度の FD 分析により課題として認識されたことから改善に向かったものとも解釈できるものであり、生徒指導及び学級経営能力に対する今後一層の注力が望まれる。

(2) 鳴門教育大学の大学院を修了した教員の全体的な印象



過去5年以内の本学大学院修了教員の認知度について、「知っている」が47.8%、「知らない」が52.2%であった。昨年は「知っている」が52%であることから減少傾向がうかがわれる。修了生から新任教員として送り出す支援を通じ、徳島県下の教育界への貢献も引き続き必要である。また徳島県教育委員会から、これまでは35～40人程度の現職教員が派遣されていたが、現在は25～30人になっている。本アンケートへの回答にあたっては、必ずしも県教育委員会から派遣された現職教員まで考慮した回答ではない可能性が高いことを考慮しておく必要もあるが、教育現場の状況を鑑み、その数が減少しつつあることは考慮すべきである。

Q6: 鳴門教育大学の大学院を過去5年以内に卒業した教員の全体的な印象について、お教えてください。



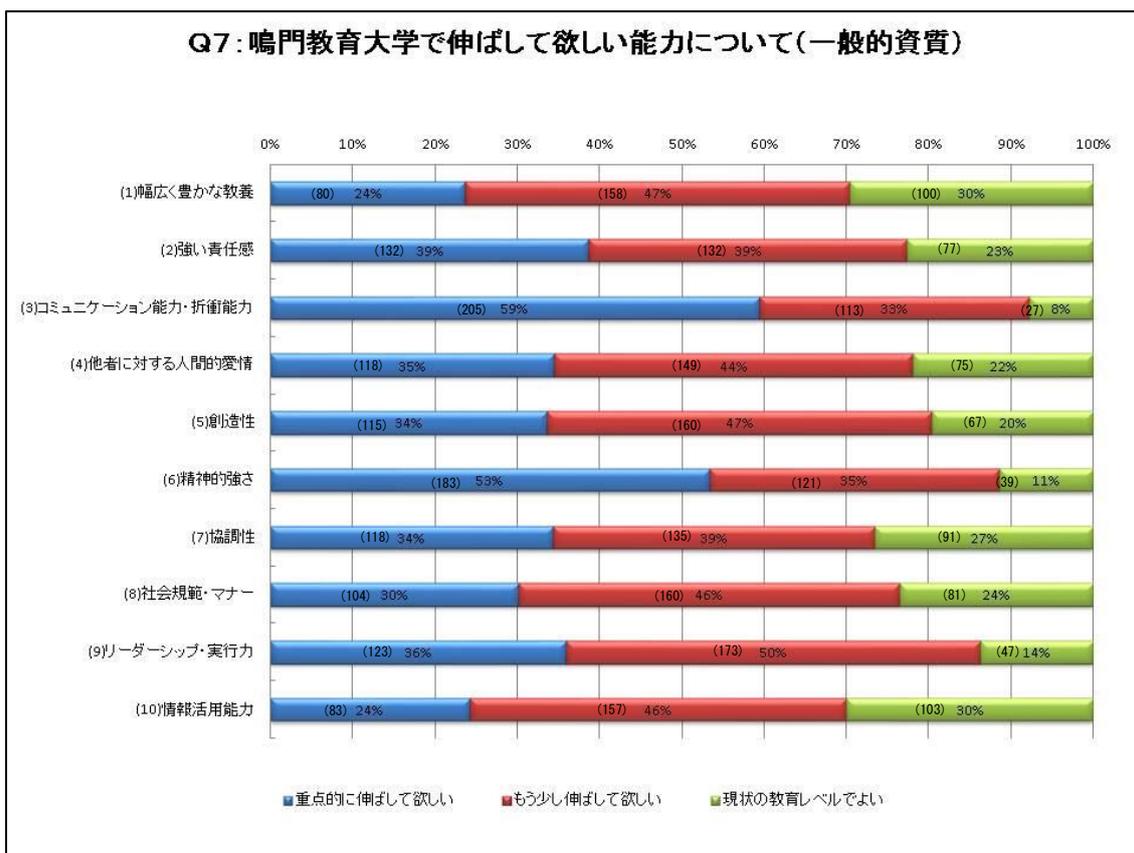
「Q5. 鳴門教育大学の大学院を過去5年以内に修了した教員をご存じですか。」から「Q5の教員の全体的な印象について、お教えてください。」として、上記グラフ10項目について4選択肢から1つを選ぶ形式で尋ねた。

「総合的に評価して、大学院を修了した教員として満足できる。」は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の肯定的な回答が88.0%と一定の評価を得た。特に「教育者としての使命感や自覚がある。」「生徒(幼児・児童を含む。)に対する教育的愛情がある。」においては、肯定的な回答が90%を超えており、本学大学院修了生が真摯に教職に取り組んでいることが伺える。

また「保護者から教師として信頼されている。」「教職員組織の一員として、他の教職員との協調性がある。」においても高い評価を得ており、教員組織や社会人として十分な対応ができていているものと考えられる。

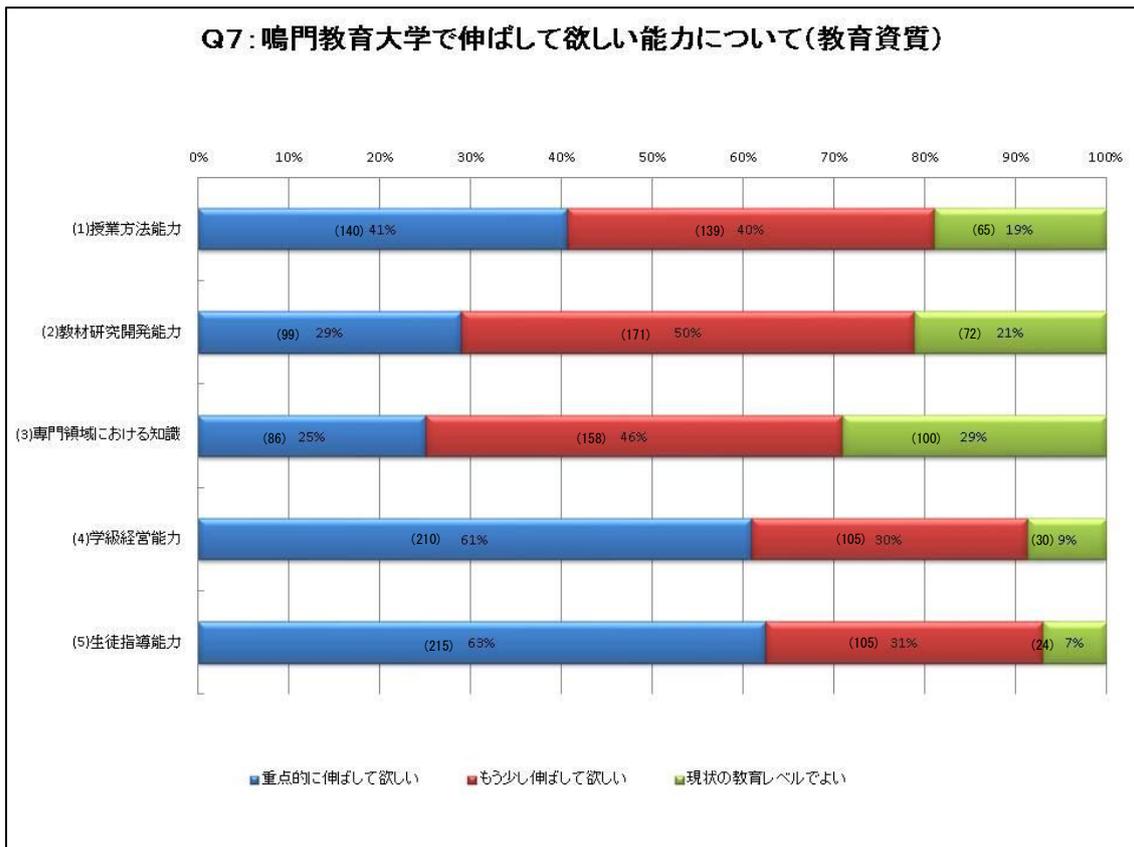
「広く豊かな教養がある。」「教科指導(授業)において実践的的力量がある。」においても高い評価が得られているものの、「生徒指導において実践的的力量がある。」「学級経営において実践的的力量がある。」では、その評価は80%程度にとどまり、相対的に否定的な回答が多かった。このことから生徒に対する教科外での指導に今後改善が求められる。また「教職員組織において、指導力(リーダーシップ)がある。」については、前年度に引き続き、肯定的評価は75%に留まり、本学大学院修了後にリーダー的役割を期待されるが、教育長及び学校長等の期待に十分に答えられていない可能性が指摘できる。引き続き、教育内容の改善を図る必要があるものと思われる。

(3) 今後の教員の在り方を見据え、鳴門教育大学で伸ばして欲しい能力



一般的資質に関わる10項目のすべてにおいて、「重点的に伸ばして欲しい」と「もう少し伸ばして欲しい」を合わせた割合が70%を超えている。

そのうち80%を超える高い割合を示した項目は「(3)コミュニケーション能力・折衝能力」(92%)、「(6)精神的強さ」(88%)、「(9)リーダーシップ・実行力」(86%)、「(5)創造性」(81%)である。この中でも特に「(3)コミュニケーション能力・折衝能力」(59%)と「(6)精神的強さ」(53%)は「重点的に伸ばして欲しい」との回答の割合が高い。



また、教育資質に関しても5項目のすべてにおいて、「重点的に伸ばして欲しい」と「もう少し伸ばして欲しい」を合わせた割合が70%を超えている。そのうち90%を超える高い割合を示した項目は「(5)生徒指導力」(94%)と「(4)学級経営力」(91%)であり、これらの項目は他の項目に比べて「重点的に伸ばして欲しい」と回答した割合(それぞれ63%, 61%)が突出して高い。以上の項目に、「(1)授業方法能力」(81%)、「(2)教材研究開発力」(79%)、そして「(3)専門領域における知識」(71%)が続く。この結果は、平成26年3月実施の前回調査の結果と概ね同様である。特に割合の高かった「生徒指導力」や「学級経営力」は、上述の一般的資質で割合の高かった「コミュニケーション能力・折衝能力」や「精神的強さ」との関連性が高い資質・能力ではないであろうか。これらの資質・能力の育成については、大学キャンパスにおける講義・演習に限った教育では限界があるため、教育実習や学校支援インターンシップ、ボランティアなどの機会を教育課程の内外に積極的に取り入れていく必要があると考えられる。

(4) 鳴門教育大学・大学院の教育内容について、良いと思われること、改善すべき点又は要望

今回のアンケートの自由記述の回答については、「なし」や、良いことで問題を記述したり、要望・改善点で「～ありがたかった」といった良いことを記述したりするなどの回答を除いた有効回答数は、「良いこと」が147件、要望・改善点が126件であった。

それら一件一件の記述内容から、観点を導き出し整理統合していくことで、別表に示すような「大学教育方針や成果に関すること」、「教育組織・内容・方法に関すること」「教員に関すること」「教員として働いている卒業・修了生に関すること」、「在学生に関すること」、及び「その他」という5つのカテゴリー及びサブカテゴリーを導きだした。なお、一件の回答には複数の観点を内在しているものもあるので、それらはできる限り個別にカウントするようにした。

また、それぞれのカテゴリーについてはできる限り独立性をもたせるようにしたが、たとえば、卒業・修了生に関することや、在学生に関することは、大学の教育方針の中の、人材の育成にかかわることと関連しており、重複してカウントしているものもある。そのため、単純に総数を比較するというのではなく、個別のカテゴリー、サブカテゴリー毎を比較することから、本学に対するステークホルダーの評価内容を検討することにしたい。

まず、全体像として、注目したいのは、「良いこと」と、「要望・改善点」で、およそ共通して注目される観点と、いずれかで強く注目される観点があるという点である。前者は、包括的なカテゴリーといえる、「大学教育方針や成果に関すること」、「教育組織・内容・方法に関すること」である。一方後者は、「教員に関すること」、「教員として働いている卒業・修了生に関すること」、「在学生に関すること」などである。

そこで、包括的な観点は後で検討することとして、後者の三つの観点について見ていくことにする。

「教員に関すること」では、良いこととしては、「優秀な教授陣が、少数の学生に対して非常にきめ細かく指導して下さる」、「きめ細かい指導ができています。指導する教授や講師の先生方も、熱心に指導され・・・」といったように、教員の指導性や指導力について関する指摘や、指導姿勢、熱意等についてとりあげられているのに対して、要望・改善点ほとんどなかった。ただ、こうした本学教員の指導の様子については、実際に参観する機会もあまりないことから、社交辞令的な表記の可能性もあると考えられる。

同様に「在学生に関すること」についても、実習で担当したことのある回答者は担当した学生についての印象での回答であろうと思われるが、それ以外の記述については、おそらく一般論的な印象に基づく記述であろうと推察される。以上のように、良いことで多くの指摘がある一方、要望・改善点の具体的な指摘が少ない観点に関しては、社交辞令的な記述や一般論的な記述である可能性が高く、その結果を持って、肯定的な評価であるとは言い難い。大学の授業をより多くの機会に公開するなど、ステークホルダーが大学の指導について具体的にみることを増やすなどの工夫が必要であろう。

一方、「教員として働いている卒業・修了生に関すること」に関しては、要望・改善点で、新しいサブカテゴリーが必要となるほど、多くの指摘を受けている。

良いことにならないサブカテゴリとして「新しい教育課題への対応」「柔軟性・大胆さ」「心の強さ」が必要となった。これらは、今日の教育現場が置かれた厳しい状況を示している。次々に起こる新しい教育課題が発生する状況、複合的で多層的な実践課題、そうした中でベテランの教員ですら精神的に追い詰められることがあるという実情。そうした状況に耐えるだけでなく、対応し、打開していく力が求められているということであろう。「教員」という型にはまりすぎる傾向があります」「平均点でスマート過ぎるきらいがある。」といった指摘からは、本学の卒業生の真面目さ（これは評価されている点ではあるが）が、弱さとして映っていると考えられる。「いろいろな視野をもって大きく広く考え方を広げてほしいと思います」「実践的なスキルも欠かせないが、大学時代でしか学べない教養や実体験を重ねてほしいと願っている。」といった指摘にあるように、大学時代には、教員としての指導力に直接結びつくようなことだけではなく、幅広い経験が求められているということであろう。

次に、包括的なカテゴリについて見ていく。

「大学教育方針や成果に関すること」では「人材の育成」で多くの好評価がある一方で、同数以上の要望や改善が求められている。この点は、「教員として働いている卒業・修了生に関すること」の傾向と重複する部分である。

「地域連携・貢献、現場貢献」については「大学の先生方に学校経営や教育活動への助言をいただき成果が上がっている」、「これからの徳島教育の一翼を担う教員を多く育てることで、徳島の未来を切り拓く子どもを育ててほしいと思います。」、「地元徳島の「教育」の現状に合った内容が取り入れられていること」等、本学が地域や教育現場に対して果たしてきた役割とその成果が評価されている。「要望・改善点」では、「もっと」「今後とも」というように、肯定的な評価の上での要望もあり、要望の点からも地域連携・貢献、現場貢献については一定の評価を得ていると考えられる。

「教育組織・内容・方法」では、良いこととして「専門性」や、「教育現場との連携・実践的」であることへの評価が高い一方で、要望・改善点では「コース・カリキュラム」の面での指摘が多くなっている。「生徒指導のあり方と共に保護者対応の仕方についても学んだ方がよい」「生徒指導を体験的にではなく、より深い認識 子ども理解に基づく対応のできるカリキュラムができれば」といった声からも、前述の本学卒業生への期待値との関連する「教育現場の状況を打開するような教員を育成できる教育課程や教育内容が求められているといえる。

良いこと	
大学の教育方針, 成果	
人材の育成	74
地域連携・貢献, 現場貢献	26
現職教育の意義	8
進路(採用率・就職率)	8
その他 具体的記述無し等	7
教育組織・内容・方法	
コース・カリキュラム	7
専門性	14
多面性	1
教育現場との連携・実践的	17
実習	7
ボランティア	2
丁寧・細やか	5
少人数	5
就職支援	6
教員	
人数・構成	2
教育現場との連携・協働	2
指導力	10
対応・関係性	1
熱意	5
専門性	1
卒業・修了生(教員)	
対応力	5
リーダーシップ, 中核	2
教員としての基礎的能力	20
即戦力	3
専門性	10
姿勢・態度	12
在学生(実習生)	
現場への関心・実習への姿勢	5
教員としての基礎的能力	3
態度・人間性	8
その他	3

要望・改善点	
大学の教育方針, 成果	
人材の育成	80
地域連携・貢献, 現場貢献	9
現職教育の意義	1
その他 具体的記述無し等	2
教育組織・内容・方法	
コース・カリキュラム	12
専門性	7
多面性	3
教育現場との連携・実践的	13
実習	4
就職支援	3
教員	
指導力	1
卒業・修了生(教員)	
対応力	13
リーダーシップ, 中核	4
教員としての基礎的能力	16
即戦力	4
専門性	2
姿勢・態度	5
協働力・コミュニケーション力	12
新しい教育課題への対応	6
柔軟性・大胆さ	13
心の強さ	7
在学生(実習生)	
教員としての基礎的能力	1
その他	1